不妊治療と仕事の両立支援

ここでは不妊治療と仕事の両立支援を進めるため、治療内容や支援のポイント、さらには両立者の声や事業所の取組を紹介します。

近年、晩婚化等を背景に不妊治療を受ける人は増加傾向にあり、女性だけでなく、男性で不妊治療を受ける人も少なくありません。不妊の検査や治療経験のある夫婦は4.4組に1組※1となっており、全出生児のうち7.2%※2（約14人に1人）が生殖補助医療によって誕生しています 。その一方で、厚生労働省の調査によると、不妊治療を受けたことがある労働者のうち16%が両立できずに離職しています。両立できなかった主な理由としては、「精神面で負担が大きいため」、「通院回数が多いため」、「体調、体力面で負担が大きいため」の順に、回答が多くなっています。

不妊治療と仕事の両立については、2021年2月に次世代育成支援対策推進法（以下「次世代法」）に基づく行動計画策定指針が改正され、一般事業主行動計画に盛り込むことが望ましい事項として「不妊治療を受ける労働者に配慮した措置の実施」が追加されることとなり、同年4月から適用されています。さらに、2022年4月からは、不妊治療と仕事の両立に取り組む優良な企業に対する新たな認定制度が創設され、次世代法に基づく「くるみん認定」等にプラスされているほか、不妊治療の保険適用もスタートしています。

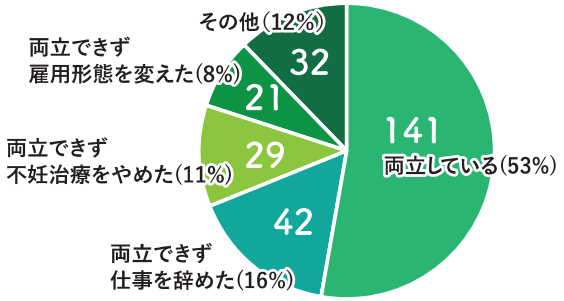
こうしたことから、事業所においては労働者が不妊治療を受けながらも働き続けられる環境づくりや、事業所内における不妊治療に対する理解の促進に努めていくことが求められています。

※1 出典：国立社会保障・人口問題研究所「第16回（2021年）出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」

※2 出典：生殖補助医療による出生児数：（公社）日本産科婦人科学会「ART データブック（2020年）」、全出生児数：厚生労働省「令和2年（2020）人口動態統計（確定数）」により算出

不妊治療と仕事の両立状況

（n=265）



不妊治療と仕事の両立ができなかった理由

複数回答　男女計（n=92）

❶ 精神面で負担が大きいため	53
❷ 通院回数が多いため	50
❸ 体調、体力面で負担が大きいため	47
❹ 待ち時間など通院にかかる時間が読めない、医師から告げられた通院日に外せない仕事が入るなど、仕事の日程調整が難しいため	39
❺ 仕事がストレスとなり不妊治療に影響がでるため	35
❻ 病院と職場と自宅が離れていて、移動が負担であるため	21
❼ 職場の理解やサポートが得られないため	13
❽ 職場が長時間労働であるため	10
❾ その他	1

出典：厚生労働省「平成29年度『不妊治療と仕事の両立に係る諸問題についての総合的調査』」

不妊治療の全体像〈概略図〉

不妊の検査方法と主な原因

- **検査（原因検索）**：①男性不妊、②女性不妊、③原因が分からない機能性不妊に大別される。複数の原因を持つ場合もある。診療所見、精子の所見、画像検査や血液検査等を用いて診断する。
- **原因疾患への治療**
  - **①男性側に原因**：精管閉塞、先天性の形態異常、逆行性射精、造精機能障害等。手術療法や薬物療法が行われる。
  - **②女性側に原因**：子宮奇形や、感染症や子宮内膜症による卵管やその周囲の癒着、ホルモンの異常による排卵障害や無月経等。手術療法や薬物療法が行われる。

原因不明の不妊や治療が奏功しないもの

- **一般不妊治療**
  - **タイミング法**：排卵のタイミングに合わせて性交を行うよう指導する。
  - **人工授精**：精液を注入器で直接子宮に注入し、妊娠を図る技術。主に、夫側の精液の異常、性交障害等の場合に用いられる。比較的安価。
- **生殖補助医療（特定不妊治療）**
  - **体外受精**：精子と卵子を採取した上で体外で受精（シャーレ上で受精を促す等）させた受精卵（胚）を、子宮に戻して妊娠を図る技術。
  - **顕微授精**：体外受精のうち、専用針で精子を卵子細胞質内に注入する受精方法。
  - 胚移植の段階で、以下に分かれる。
    - ・新鮮胚移植
    - ・凍結胚移植
  - **男性不妊の手術**：射精が困難な場合等に、手術用顕微鏡を用いて精巣内より精子を回収する技術（精巣内精子採取術（TESE））等。➡顕微受精に使用される。

参考：厚生労働省「不妊治療を受けながら働き続けられる職場づくりのためのマニュアル」

不妊治療と仕事との両立を支援する上でのポイント

① 男女とも同様に利用可能な制度とする
② 非正規雇用労働者も対象にする
③ 社員のニーズを把握し、多様な制度を整備する
④「不妊治療」を全面に出さないほうがよい場合もある
⑤ 不妊治療以外の施策とパッケージ化して導入する
⑥ 導入時には外部にも発信する
⑦ プライバシーの保護に配慮する
⑧ ハラスメントを防止する
⑨ 制度づくりと併せて職場風土づくりをする
⑩ 不妊治療と仕事の両立に係る認定の取得を目指す

参考:厚生労働省「不妊治療を受けながら働き続けられる職場づくりのためのマニュアル」
※厚生労働省において、不妊治療と仕事の両立に取り組む中小企業事業主を支援する助成金制度が整備されています。詳細はP.34「両立支援等助成金（不妊治療両立支援コース）」をご覧ください。

不妊治療
コラム

不妊治療は今や社会的な課題に

［NPO法人Fine］ファウンダー・理事　松本亜樹子氏

現在、不妊を心配したことがある夫婦は3組に1組もいるといわれており、また、私どもが実施した調査によると、繰り返し治療を受けるケースが多く、全体の約80%は1年以上治療を続けているため、身体的にも経済的にも大きな負担となっています。

不妊治療をする人は職場で相談できず1人で抱えがちですので、メンタルケアも非常に大事な問題です。気を遣うことが逆に当事者に気を遣わせてしまうこともありますので、過度に特別視せずに自然体で接することが大切です。

当事者によっては、負担軽減のための部署異動を希望せず、現職のまま頑張りたいと思っている方もいらっしゃいます。事業所の皆様には「仕事は責任を持ってやり遂げたいし、その上で治療も行いたい」と思っている当事者がいることをご理解いただき、その思いを尊重していただけたらと思います。

これまで不妊治療は、個人的な課題やマイノリティの問題として捉えられてきました。しかし、今や不妊は社会的な課題としての一面を持っています。だからこそ事業所の皆様には、不妊治療の理解を深めるための社員教育や当事者が制度を利用しやすい風土づくりに取り組んでいただきたいです。

不妊治療と仕事が両立でき、キャリアプランからプライベートな相談まで気軽にできる、風通しの良い職場が増えていってほしいですね。

●NPO法人Fine

不妊治療患者が正しい情報に基づき、自分で納得して選択した治療を安心して受けられる環境、また不妊に悩む方が社会から孤立することなく、健全な精神を持ち続けられる環境を整えることを目指している。カウンセラーによる個別相談のほか、各種講演会などで不妊に関する啓発活動を行う。
【ホームページ】 https://j-fine.jp/

不妊治療と仕事の両立 リアルボイス①

不妊治療と仕事の両立に取り組まれている方々にアンケートを実施し、両立する上での悩みや望む支援等をお聞きしましたので、その一部をご紹介します。

Q　職場の支援制度や対応で助かったと感じることは？

- **フレックスタイム**や**振替出勤**で休暇を消費しなくても通院ができており、**同僚の理解も得られている**ので、ありがたいと感じている。
- **時間単位で取得できる有給**があること。
- **自分の裁量でテレワーク**ができること。
- **休む理由を詳しく聞かれることがなかった**ことが精神的に助かった。

Q　両立する上で大変に感じたことは？

- **急に休みが必要になる**ことがあるため、**同僚に迷惑をかけていないか申し訳ない**気持ちになる。
- **服薬による倦怠感やむくみ**等の身体への負担があり、どうしても**仕事のパフォーマンスが低下**してしまう。

不妊治療と仕事の両立経験者の声

株式会社一人計画 伊藤舞依子氏

突然の通院や体調不良も気兼ねなく何でも言える関係性の構築がベースに

―治療の経緯と両立のために活用した制度は?

4年間にわたり不妊治療を受けました。最初の約2年間はタイミング法、人工授精だったので月1回程度の通院、その後、体外受精へと移行したため通院頻度が増えました。上司(代表)には通院を始める段階から話をし、カレンダーアプリを使って体調が悪くなりそうな日や通院日を共有していました。

ただ、不妊治療では「3日後の朝8時に来院してください」などと指定され、ピンポイントで通院が必要になることもしばしばありました。そのため、仕事の予定変更が難しい時などは通院を諦めたこともあります。また、採卵期に入ると3日に1回程度のペースで通院する必要があり、採卵後は発熱や痛みなどに襲われるため、テレワークや有給休暇などを活用しました。

―両立する上で苦労したことは?

通院に加えてハードルが高かったのは自己注射です。勤務時間中に排卵誘発のための自己注射をしなくてはならず、場所やタイミングなど注射の機会を確保するのに苦労しました。また、治療の影響で体重変動があり「太ったね」と配慮に欠ける言葉をかけられるなど、精神的に滅入る時もありました。でも、何でも言い合える職場環境だからこそ、不妊治療と仕事の両立ができたのだと思います。

―経験者としてのアドバイスを。

不妊治療は先々の予定が組めず、急な通院や体調不良が伴います。ぜひ社会全体で理解を深めていただきたいです。

株式会社一人計画

所　在　地:名古屋市
業　　種:各種プランニング、プロモーション、広告媒体の制作・販売
従業員数:3名

基本的な考え方

個々の働き方が大切との思いから、個々の状況に合わせて働き続けられる環境づくりを重視。急な休暇取得や勤務時間の変更、在宅勤務への切り替えにも臨機応変に対応している。

株式会社中日新聞社 東京本社 川田篤志氏

不用意な発言でストレスを抱えないよう管理職以外も不妊治療の理解を深めて

結婚して3年経っても妊娠しなかったことから、検査を受けた結果、精索静脈瘤※と診断され、手術を受けました。術後まもなく妊娠が発覚し、無事第1子が生まれました。

―手術する上での不安や悩みは?

私の場合、長期通院は必要なかったので、仕事への影響はそこまでありませんでした。ただ、術後に下腹部に痛みが出て、2週間程度歩行に影響が出たことは少し苦労しました。

手術前には政治部の男性キャップに手術の相談をし、ほかの人には口外をしないでほしいと伝えました。不妊治療をしていますと言うと、本人に悪気がなくても「そろそろ子どもはできた?」などと聞かれることが多くなると思ったからです。

―あると良いと思う制度は?

男性の場合、検査などは短時間で済むため、時差出勤制度があると休暇を取らずに対応することが可能になります。女性は、突発的かつ長期間の通院が必要となることも多いため、不妊治療にも利用できる特別休暇制度などが拡充されると安心ですね。

―経験者としてのアドバイスを。

保険適用が拡大され、社会的に不妊治療の認知度が上がっています。不妊治療を続けていく上で、会社に相談する必要がでてくることもあると思います。その際に、周囲からの不用意な発言で当事者がストレスを抱えないよう、社員教育にも力を入れていただきたいと思います。

※精索静脈瘤…男性不妊症の原因の3割を占めるといわれ、精巣内の温度が高くなり、精子の数や運動性が低下する。手術により精液の所見が改善する可能性がある。

不妊治療と仕事の両立を支援する事業所の取組

明治安田生命保険相互会社

休暇制度の拡充と、制度を利用しやすい環境整備を推進

近年の晩婚化等により不妊治療を始める方が増加傾向にある背景を踏まえ、明治安田生命保険(相)では、従業員一人ひとりに寄り添い、イキイキと働くことができる職場づくりを目的に、2022年4月から不妊治療を受ける従業員の支援に取り組んでいます。

所　在　地:東京都
業　　種:保険業
従業員数:47,415名

●「治療サポート休暇」の拡充

がん等、重度疾病治療または不妊治療のため、入通院する場合に取得可能な「治療サポート休暇」(最大年間20日)を創設。時間単位、半日単位での取得を可能とするなど、頻繁な通院が必要な不妊治療に対して柔軟な働き方を可能とする制度設計としている。

●所属長等への啓発活動の推進

不妊治療中の従業員が休暇を取得したり、相談できる環境を整えるために、不妊治療を含めた“女性の健康課題”をテーマとした管理職向けの動画教材を提供し、不妊治療に対する管理職の理解促進に取り組んでいる。

深田電機株式会社

ライフスタイルに合わせた働き方の実現のために不妊治療を支援

深田電機(株)では、一人ひとりの個性を尊重し、ライフスタイルに合った働き方の実現を支援しています。不妊治療に関しては、保険適用が開始されたとはいえ依然として個人の負担は小さくないことから、高度不妊治療(生殖補助医療)を受ける従業員向けに、以下の制度を2022年9月から導入しており、従業員に活用されています。

所　在　地:名古屋市
業　　種:卸売業
従業員数:98名

●高度不妊治療休職制度

高度不妊治療を受ける43歳未満の女性従業員が希望した場合、1か月単位で最長1年間の休職を可能としている。

●高度不妊治療費の補助

1回の治療につき最大10万円の補助制度を設けている。配偶者が治療を受ける場合や、第2子以降の高度不妊治療も対象としている。

また、同社では主に総務課が窓口となり、不妊治療や育児・介護と仕事の両立やハラスメントに関する相談を受け付けているほか、時間単位の有給休暇制度やテレワークを導入するなど、不妊治療を受けながら働き続けられる環境整備を進めています。

不妊治療と仕事の両立 リアルボイス②

Q　職場の周囲からの言動で嫌な気持ちになったことは?

- 「〇〇さんはすぐ休む」と言われたことが辛かった。
- 急に休む可能性があることを前もって上司に伝えていたが、**いざ休みを申請すると難色を示された。**

Q　両立のために職場に望む対応は?

- 不妊治療の通院では丸1日休む必要がない場合が多いので、**半日や時間単位で取得できる休暇制度**があると利用しやすい。
- **不妊治療のために利用できる**特別休暇制度がほしい。
- 異性の上司に伝えづらいため、**同性の相談員がいる両立相談窓口**があると助かる。
- 治療で急に休むことになっても、周りの人へ迷惑をかけなくて済むように、**人員の余裕**を持った配置をしてほしい。
- 不妊治療する人によって、仕事を頑張りたいのか、プレッシャーの少ない仕事にしたいかなど分かれると思うので、**本人の意向を確認してほしい。**